

## キックオフ®顆粒水和剤

- 特長：
- 育苗トレイに灌注する殺虫剤です。
  - 均一かつ省力的な処理が可能で、チョウ目害虫とナメグリバエ、アブラムシ類に効果が持続します。

キックオフは三井化学アグロ（株）の登録商標です。

有効成分	クロラントラニプロール・・・4.0% ジノテフラン・・・15.0%	包装	250g×40
性状	類白色水和性細粒	有効年限	5年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

2019年5月15日現在の内容です。

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロラントラ ニプロール を含む農薬の 総使用回数	ジノテフランを含 む農薬の総使用回 数
かき	コカバラムシ類 カキハタムシガ カミシ類 アザミヤメ類 ケムシ類	2000倍	200～700 ㍓/10a	収穫前日 まで	3回 以内	散布	3回以内	4回以内 (塗布は1回以内、散 布は3回以内)
キャベツ	アブラムシ類 コカバ アオムシ ヨウムシ ハスモントウ ハイダバラノメガ アザミヤメ類	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌 約1.5～4.0㍓) 当り0.5㍓	定植前日 ～定植時	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は1回以 内、散布は3回 以内)	3回以内 (育苗期の株元散 布、定植時の土壌混 和及び灌注は合計1 回以内、散布は2回 以内)
はくさい	アブラムシ類 コカバ アオムシ ヨウムシ ハイダバラノメガ	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌 約1.5～4.0㍓) 当り0.5㍓	定植前日 ～定植時	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は1回以 内、散布は3回 以内)	3回以内 (定植時の土壌混和 及び灌注は合計1回 以内、散布は2回以 内)
ブロッコリー	アブラムシ類 コカバ アオムシ ハスモントウ ヒメダイコンバエ	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm・ 使用土壌 約1.5～4.0㍓) 当り0.5㍓	定植前日 ～定植時	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は1回以 内、散布は3回 以内)	3回以内 (定植時の土壌混和 及び灌注は合計1回 以内、散布は2回以 内)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロラントラ ニリプロール を含む農薬の 総使用回数	ジノテフランを含 む農薬の総使用回 数
レタス	アブラムシ類 材タバコガ カブラヤガ ナメグリバエ ハスモンヨトウ	100 倍	セル成型育苗トレイ 1 箱または ペーパーポット1 冊 (30×60cm・ 使用土壌 約 1.5～4.0 リットル) 当り 0.5 リットル	定植前日 ～定植時	1 回	灌注	4 回以内 (定植時までの 処理は1 回以 内、散布は3 回 以内)	4 回以内 (は種前の培土混和 は1 回以内、育苗期 の株元散布、定植時 の土壌混和及び育 苗トレイへの灌注は合 計1回以内、散布は2 回以内)
非結球 レタス	アブラムシ類 材タバコガ カブラヤガ ナメグリバエ ハスモンヨトウ	100 倍	セル成型育苗トレイ 1 箱または ペーパーポット1 冊 (30×60cm・ 使用土壌 約 1.5～4.0 リットル) 当り 0.5 リットル	定植前日 ～定植時	1 回	灌注	4 回以内 (灌注は1 回以 内、散布は3 回 以内)	4 回以内 (は種前の培土混和 は1 回以内、育苗期 の株元散布、定植時 の土壌混和及び育 苗トレイへの灌注は合 計1回以内、散布は2 回以内)
ねぎ	ナメグリバエ類 アザシマ類 シロイモシヨトウ	100 倍	セル成型育苗トレイ 1 箱または ペーパーポット1 冊 (30×60cm・ 使用土壌 約 1.5～4.0 リットル) 当り 0.5 リットル	定植前日 ～定植時	1 回	灌注	4 回以内(灌注 は1 回以内、散 布は3 回以内)	4 回以内 (は種時の土壌混 和、育苗トレイへの灌 注及び定植時の株 元散布は合計1 回以 内、生育期の株元灌 注は1 回以内、散布 及び定植後の株元 散布は合計2 回以 内)
さとう きび	カンシヤコバネカガ ムシ サトウキビヒゲアザ シマ アヲトウ 付ゴ類 アブラムシ類 メイチユ類	2000 倍	100～300 リットル/10a	収穫45 日前まで	3 回 以内	散布	4 回以内(粒剤 は1 回以内、水 和剤は3 回以 内)	5 回以内 (粒剤は2 回以内、液 剤、水溶剤及び水和 剤は合計3 回以内)

については有効成分を含む農薬の総使用回数を示すものです。

#### 使用上の注意事項

- (1) 使用量にあわせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 本剤をセル苗に使用する際は、調製液をセル成型育苗トレイまたはペーパーポット上方から灌注すること。また、本剤が土壌に十分に吸収されないおそれがあるので処理直前や直後の灌水はさけること。
- (3) はくさいに使用する場合は、軟弱徒長苗、高温乾燥時、あるいは過剰使用により、葉縁が退色するなど薬害を生ずる恐れがあるので、健苗を用意して、適切な温度管理につとめ、所定の使用液量、濃度、使用時期を厳守して使用すること。
- (4) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (5) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - 1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - 2) 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。

- 3) 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (6) 空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (7) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (8) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。